

3 新発田に花開いた城下町文化 15~19

4 新発田川とともに暮らす 20~27

1 幕末の良港・桃崎浜の繁栄を偲ぶ 1~4

2 まちなかに残る宿場町・中條の面影 5~11

阿賀北・新発田地域 文化・歴史探訪 まち歩き・まち巡り ガイドマップ

5 全国屈指の豪農、今に伝わるその栄華 28~33

6 天領のまち・県政発祥の地・水原 34~39

7 聖観音の湯「ざぶ〜ん」 40~45

新発田地域へのアクセス

新発田地域への主なアクセスは、

- 鉄道: 豊栄駅、新発田駅、中条駅、水原駅より
- 高速道路: 聖籠新発田IC、中条IC、荒川胎内IC、安田ICより



肥沃な穀倉地帯・越後平野の北に位置する阿賀北・新発田地域。その昔、この地域は水はけが悪く、内陸には大小の湯湖が点在し、蒲が生い茂る湿地帯でした。近世になり、幾多の先人の苦勞により新田が開発されると、藩の財政や暮らしが安定し、文化面へ目向けられるようになります。そして、商品経済の進展や、街道の整備に伴う人物の交流により、上方や江戸の文化がもたらされ、この地においても、様々な文化が発展しました。港町、宿場町、城下町…。それぞれの町の歴史や、それぞれの町で育まれた文化を、マップを片手に訪ねてみませんか。

主要機関連絡先

市町役場等	道の駅・物産センター等	観光協会・旅館組合等	タクシー
新発田市役所 ☎0254-22-3030	道の駅加治川 ☎0254-20-7393	(一社)新発田市観光協会 ☎0254-26-6789	新発田市 橋下越タクシー ☎0254-22-4714
阿賀野市役所 ☎0250-62-2510	道の駅あがの ☎0250-25-7011	月岡温泉旅館組合 ☎0254-32-2975	新発田観光タクシー一社 ☎0254-22-3188
胎内市役所 ☎0254-43-6111	五頭山麓うららの森 ☎0250-61-3511	阿賀野市観光協会 ☎0250-62-2510	太閤交通新発田中央棟 ☎0254-22-1166
聖籠町役場 ☎0254-27-2111	道の駅胎内 ☎0254-47-2723	五頭温泉郷旅館協同組合 ☎0250-61-3003	阿賀野市 五頭タクシー一社 ☎0250-62-4444
新潟県新発田地域振興局 ☎0254-22-8612	聖籠地場物産館 ☎0254-27-1212	(一社)胎内市観光協会 ☎0254-47-2723	あがのタクシー一社 ☎0250-62-3333
		聖籠町観光協会 ☎0254-27-2111	朝日観光タクシー ☎0250-62-2840
			胎内市 樹中央タクシー ☎0254-44-8888
			観光タクシー一社 ☎0254-39-1015
			聖籠町 樹聖観音タクシー ☎025-256-2552
			東洋タクシー一社 ☎025-256-2244

1 幕末の良港・桃崎浜の繁栄を偲ぶ

江戸時代、胎内市の桃崎浜は、村上市の塩谷浜、海老江とともに荒川三湊と呼ばれた新潟県北部沿岸唯一の良港で、糸魚川、直江津今町、出雲崎、新潟などとともに北前船の寄港地でした。桃崎浜では廻船問屋が繁盛し、その船は、南は瀬戸内海、北は北海道方面まで活躍しました。



【船給馬 八幡丸(左)、不動丸(中)、永宝丸(右) (天保13年)】



① 桃崎浜文化財収蔵庫

北前船の船主や船頭は、大阪などの有名な絵馬師に自分の船を描かせ、海上安全の祈願や商売繁盛のお礼を込めて、航海の守護神である神社などに奉納しました。胎内市にはこうした船絵馬が数多く残っており、桃崎浜はじめ、荒井浜、中村浜、山屋、村松浜などの神社から発見された船絵馬は182枚に及びます。桃崎浜文化財収蔵庫に所蔵されている船絵馬85枚と2隻の模型和船は、国の重要民俗文化財に指定されています。



■見学は事前予約が必要です。胎内市生涯学習課 ☎0254-47-3409

② 黒川郷土文化伝習館

荒井浜の野澤家・細野家は北前船交易の廻船問屋、地主などをしました。黒川郷土文化伝習館には国登録有形文化財野澤家の写真や、細野家に伝わる民具類が展示されています。



☎0254-47-3000

③ 村松浜・金刀比羅神社

村松浜の廻船問屋・平野家五代目安之丞が海上安全の守り神として四国から分霊したもので、市指定文化財の本殿は天保6年(1835)に完成しました。社殿は丹精をつくした見事な彫刻で飾られ(表紙左上写真)、社地の松林や環状形の池にも対応し、四季を通じて美しいたたずまいを見せています。



周辺の見どころ ④ 乙宝寺



736年聖武天皇の勅願による開山で、「今昔物語」古今著聞集にも登場している越後屈指の古刹です。松尾芭蕉が奥の細道の行脚で参拝したことで知られ、境内には芭蕉の句碑があります。元和6年(1620)村上城主建立の三重塔は、純和様建築で美しく国の重要文化財に指定されています。



☎0254-46-2016

2 まちなかに残る宿場町・中條の面影

中条は、中世は奥山荘といわれた荘園が存在し、鎌倉時代以降は中条氏が支配しましたが、上杉景勝の会津移封に従って中条氏が出羽へ移った後は、領主は複雑に推移し、近世は米沢街道と羽州浜街道が交わる要所の宿場町として発展しました。

江戸時代の中条は熊野若宮神社付近の本町通りに宿や商店が建ち並び、元禄年間には六斎市がはじまって、近郷の市場町としても賑わいました。元禄3年(1699)建立の熊野若宮神社をはじめ、江戸期や明治期に建てられたお寺、割烹、商店、土蔵などが、宿場町・中條の面影を伝えています。

◆熊野若宮神社・その周辺



5 周囲を流れる桑橋川 6 熊野若宮神社 7 荒惣の土蔵 8 割烹南部屋 9 割烹丸市 10 とせや旅館の土蔵



⑪ 中条市

毎月3と念のつく日に熊野若宮神社周辺で開催されます。元禄年間から続いている別名「三八市」。地元野菜や魚の他、生活用品などが並び、町の人々はもちろん観光客にも親しまれています。

【安政2年の東講商人鑑(大城屋良助編)】(新潟県立歴史博物館所蔵) 左手下の熊野若宮神社から、右手へ上町、中町、下町と続いている。現在も営業を続ける西屋(菓子屋)、元肴屋旅館などの名前が見える。

周辺の見どころ ⑫ 太総寺

胎内市西条にある曹洞宗の寺院。東洋美術史家で歌人、書家としても知られる會津八一は、昭和20年(1945)4月の東京大空襲で家や書籍のすべてを失い、遠戚にあたる胎内市西条の丹貝家に、養女キイ子とともに疎開しました。しかし、キイ子はほどなく病死。悲しみの中から多くの歌がうまれました。太総寺に建立された歌碑には、西条で詠まれた歌とともに八一自筆の親画像が添えられています。



⑬ 奥山荘歴史館・江上館跡・坊城館跡

奥山荘歴史館では、中条氏ゆかりの品々が展示されています。江上館(国史跡)は、中世・中条氏の居館であり、平地の水堀と土塁に囲まれた典型的方形居館です。坊城館(国史跡)は、鎌倉時代の地頭の屋敷で、のちに江上館へ本拠が移されました。



☎0254-44-7737

⑭ 城の山古墳

城の山古墳(国指定史跡)は、阿賀北唯一の前期古墳で、径40mほどの4世紀代の円墳です。沖積地に築かれ、8mもの長大な木棺からは、鏡・玉・大刀・鞍・銅鏃等が出土し、ヤマトの勢力と密接な関係があったことがわかっています。



3 新発田に花開いた城下町文化

上杉景勝が豊臣秀吉の命により会津若松へ移封されると、越前国北の庄から堀秀治が春日山に封じられました。このとき堀氏の与力大名として、新発田には加賀国大聖寺から溝口秀勝6万石が配置され、以後、明治維新まで12代に渡り溝口家が新発田を統治しました。

17世紀後半になり藩政が確立し財政が充実すると、文化面に目が向けられるようになり、下屋敷の建設や庭園の築造がなされ、また、歴代藩主は、自ら文武両道に励みました。特に、享保11年(1726)には6代直治よりおふれが出され、「新発田台輪」に代表される祭り文化が開花し、7代直温の頃には、藩士はもちろん町民の人々まで城下にて茶道が普及しました。これらは季節ごとの茶会や「城下町新発田まつり」によって、現在の新発田にも受け継がれています。

⑮ 新発田城

初代藩主溝口秀勝が慶長7年(1602)に築城し、3代宣直のときに完成しました。新発田城はかつて本丸、二の丸、三の丸からなり、堀や石垣や土居に囲まれ、新発田の水を巡らせた平城で、11棟の櫓と5棟の門が並び壮観な景観を呈していました。中でも、天守閣の代わりを果たしていたのが三階櫓(表紙右下写真)。3階の櫓を配するという独特の櫓で、全国にも例がない大変珍しいものです。平成16年に、この三階櫓、辰巳櫓が復元されました。



【溝口秀勝像】



【堀部安兵衛像】 赤穂浪士のひとり堀部安兵衛は、新発田の出身。初代藩主秀勝の曾孫にあたり、父の家老・中山弥次右衛門が辰巳樞矢火の責任を負って浪人となったことで、18歳で江戸に出て、播磨赤穂藩主・浅野内匠頭長矩の家臣、堀部弥兵衛の嫡養子となりました。本丸表門前には、安兵衛の銅像があり、格好の記念写真スポットとなっています。

⑯ 寺町通り

溝口家の菩提寺・宝光寺や、戦国時代の領主新発田家最後の城主・新発田重家が眠る福勝寺などが並びます。宝光寺には10代までの藩主の墓があり、境内には徳川家光から寄進されたと伝えられる推定樹齢380年の枝垂れ桜があります。



【宝光寺山門】

通りにある「寺町たまり駅」には休憩スペースがあり、新発田伝統の和菓子と抹茶を味わうことができます。地場産野菜や加工品の販売もしています。

⑰ 清水園

3代藩主宣直のとき溝口家の下屋敷として造られ、清水谷御殿とも呼ばれていました。庭園は、4代重雄が元禄年間に幕府茶道方の藤宗知を招いて造園させたもの。近江八景をとり入れた純京都風で、中央に草書体の「水」の字をかたどった池のある回遊式の名園です。 ☎0254-22-2659



◆ 城下町新発田まつり(8月23日～29日)・新発田台輪

しばた台輪の起源は、享保11年(1726)、6代藩主直治が、諏訪神社祭礼にあたり「賑わい」として「飾り人形の屋台を出すように」とのおふれを出したことが始まりといわれています。最終日(8月29日)、男衆が熱い心意気をつつけ合い町中に山車を曳き出す「掃り台輪」がはじまると、祭りは最高潮となります。



◆ 新発田の茶道と和菓子

新発田には、伝統的に受け継がれている石州流茶道があります。4代藩主重雄は、石州流の高弟、怡漢宗悦に茶の湯の教えを受け、5代重元に伝えこの流派を新発田に広めました。茶道とともに、和菓子文化も栄え、今でも多くの和菓子店が賑を競っています。



周辺の見どころ ⑱ 落谷虹児記念館

「金襴織子の帯しめながら…」ではじまる花嫁人形の詩の作者落谷虹児は新発田町(現、新発田市)生まれ。15歳で上京、22歳とき竹久夢二の紹介で「少女画報」に挿絵を描いてデビュー。そのモダンな作風が読者の熱狂的な支持を得て、一躍人気スターになります。画家、イラストレーター、詩人、グラフィックデザイナーなど、一人何役もこなす多才なアーティストでした。 ☎0254-23-1013



⑲ 蔵春園

1912(明治45)年、東京・向島(現在の東京都墨田区)の隅田川沿いに建設された、新発田市出身の大実業家 大倉喜八郎の別邸の一部で、同氏ゆかりの東公園に移築されたものです。当時は迎賓館としての役割を担っており、歴代首相や渋沢栄一など、政財界の要人や海外からの賓客をもてなす場として利用されました。外観は伝統的な日本建築でありながら、内装は和洋折衷の豪華な設えとなっており、皇室の宮殿(明治宮殿)と同様の建築様式を今に伝えています。



撮影:写真家 岩崎 和雄 (H24秋撮影)

4 新発田川とともに暮らす

初代藩主秀勝が、新発田城築城など城下町の都市計画の際、新発田川が開削されました。戦略的な防御のための堀、物資を運搬する水路、生活用水として、江戸から明治・大正時代にかけて新発田を支えるものでした。戦後生活様式の変化で役割は薄れていきましたが、現在も江戸時代の川筋は、ほとんど当時のまま残っています。川筋に沿って散策してみれば、新発田川とともにあった当時の暮らしの面影に出会うことができます。

⑳ 石泉荘

石泉荘(石崎家住宅)は、庭の中央を新発田川が流れており、昭和初期までは後流しがあったそうです。建物は明治時代の建造で、登録有形文化財に指定されています。 ※一般公開中止 ☎0254-21-1128



㉑ 寺町裏～三ノ町・四ノ町界隈

石泉荘を出た清水園前を流れた新発田川は左へ曲がり、寺町裏、そして町人町であった通称三ノ町(旧・桶町、魁屋町、指物町)や四ノ町(旧・材木町、紺屋町、上定役町、菜地通り)へと流れていきます。蔵や洗い場などが、新発田川が物資運搬路や生活用水であった頃の面影をとどめています。



㉑ 寺町裏の兄弟蔵 ㉒ いいでい通 ㉓ 洗い場(カワド) ㉔ 水路上の公設商店市場(現在は取り壊され存しない)

周辺の見どころ ㉕ 白勢長屋周辺(四ノ町)

明治20年頃、白勢氏が建てた総二階12軒長屋の軒が連なっている建物から平久呉服店までの一帯。古い建物や台輪格納庫、魚市場、風呂屋の煙突や飯豊連峰が見られる最もビューポイントです。かつて、三ノ町とともに越後でも日数の多い定期市・十二斎市が立て賑わいました。



㉖ 三ノ町、四ノ町の台輪格納庫

城下町新発田まつりで曳き出される台輪が収蔵されています。三ノ町の格納庫(写真右)では、まつりが近づくと、こどもたちが曳きまわす金魚台輪が軒下に出され、まつりムードが盛り上がります。四ノ町台輪蔵は、新発田藩の財政を支えた豪商白勢家の邸宅跡に建てられています。



㉗ 長徳寺

長徳寺は、赤穂浪士の一人・堀部安兵衛の生家である中山家の菩提寺。境内には、安兵衛が江戸へ発つ時に植えたといわれる松の木(現在は2世)があります。山門の脇には義士堂があり、四十七士の木像が納められています。



5 全国屈指の豪農、今に伝わるその栄華

近代の新潟県には、全国屈指の大地主が多数存在していましたが、その原型は江戸時代後半に形成されました。商品経済の発展とともに農民間の貧富の差が大きくなると、謙虚・質実れど土地の流動が盛んに行われました。商人、酒造家、村役人などから地主になるものが現れ、さらに広範囲に土地を累積して大地主に成長したのです。

その代表は市島家です。市島家は丹波国の出身で、新発田藩初代藩主溝口秀勝に従って五十公野町(新発田市)に移り住みました。のちに水原村(阿賀野市)に移り薬種商を営んで大きく発展し、土地集積を進めました。以後、地主として成長を続け、幕末には千町歩を超える巨大地主となりました。 大正13年(1924)農商務省の調査によると、千町歩以上の巨大地主は北海道を除いて9家ありましたが、そのうち新潟県が5家を占め、うち3家は新発田地域の人(市島家、白勢家、斎藤家)でした。

㉘ 市島邸

現在の市島家住宅は、戊辰戦争で旧邸宅(阿賀野市)が焼失したため、明治5年(1872)に現在地に建てたもので、敷地8,000余坪、建坪600余坪の建物(12棟1構)があり、県の重要文化財に指定されています。庭は、池を囲んで四季折々の表情が楽しめる回遊式庭園。市島一族出身の市島春城や、祖父が一族出身の會津八一ゆかりの品など、市島家の往時の繁栄ぶりを伝える品々が展示されています。 ☎0254-32-2555



【市島春城(鎌吉)銅像】 市島華頭分家・角市島家の出身。大正維新の知事を経て、早稲田大学の創設に関与、初代図書館長を務めた。

㉙ 二宮邸

二宮家は、新発田藩領進岡野の名主職、のちに代々庄屋格となりました。大正6年には968町歩余、宅地15町歩余に達しました。農地改革後、かなりの所有地を開放し敷地も一部縮小はしましたが、美しい日本庭園や、250本ものバラや草木が咲き誇るバラ園、土蔵5棟などを有する屋敷は約3,000坪に及びます。二宮邸から望む弁天湯風致公園の湯は、かつて二宮家の私有地でもありました。 ※バラの時期のみ一般公開しています。(公開期間:5月下旬～6月上旬)



㉚ 孝順寺(旧斎藤邸)

かつて日本有数の大地主であった斎藤家の邸宅を本堂とした寺。大屋根をいたいだいた本堂や回遊池泉式の大庭園のたたずまいは、見応え十分です。越後7不思議のひとつ「保田の三度栗」が有名です。 <三度栗> 信徒の捧げた焼き栗をまいて、仏縁を説いたところ、芽が出て一年に三度実る栗の木が育ったと言われています。 ☎0250-68-2434



㉛ 五十嵐邸

旧笹神村(現在の阿賀野市)に多くの農地を所有した大地主で、農地改良のほか明治の県政界、財界に影響を及ぼしました。4代、5代の五十嵐基蔵はともに新潟選出の貴族院議員を務めています。その住まいは現在、結婚式場、和・洋料理の「五十嵐邸ガーデン」として活用されています。 ☎0250-63-2000



周辺の見どころ ㉜ 聖龍山宝積院

越後三十三観音札所の第二十九番札所。昔、戦の途中嵐に遭い島(聖龍山の森)に流れ着いた若者・百合若を助けた鷹・緑丸の伝説が残る寺院で、緑丸を供養するために彫られた十一面観音菩薩が納められています。初代新発田藩主・溝口秀勝も深く信仰していました。



㉝ 華報寺

出湯温泉にある曹洞宗の寺院。行基が開山した当時は真言宗で、30数坊の伽藍があったと言われています。現在の本堂は戦後に再建されたもので、優婆塞の信仰の場として、多くの人が訪れます。境内には、佐渡出身の舞金家で人間国宝の佐々木象堂や歌人の相馬御風が訪れたことを示す石碑や共同浴場があります。



6 天領のまち・県政発祥の地・水原

水原は白河荘と称され中世から栄えてきましたが、地頭であった大見氏が水原と姓を変えて居館を構えました。その後、水原氏が上杉景勝に従い会津に移ると新発田藩の領地となり、街道の町場として六斎市も開かれるなど賑わいました。 延享3年(1746)には、幕府直轄領として、水原城館跡に代官所が設置されました。代官所の主な機能は年貢の徴収や民政ですが、特に水原代官所の場合はこの地方の豊かな生産力を背景にした年貢収納(支配高6~10万石)を確保することや、福島藩の開発、及び新発田・村上藩の監視が主な目的でした。水原代官所は以降22代まで続きましたが、明治元年(1868)7月に123年の歴史に幕を閉じました。



【安政2年の東講商人鑑(大城屋良助編)】(新潟県立歴史博物館所蔵)神明宮(左から右手へ上町、中町、下町)と商店が並び賑わった。

戊辰戦争が終結すると、新政府は越後の直轄地を統一的に支配するため、明治2年(1869)2月に越後府を水原に置きました。さらに同年7月には、開港場新潟を管轄する新潟県を統合して水原県と改称。水原は、その翌年県庁が新潟へ移されるまで越後直轄地支配の中心地となりました。その歴史的背景から、水原は県政発祥の地とも言われています。

㉞ 水原代官所

廃絶から127年後の平成7年(1995)8月25日、残された資料に基づいて復元されました。往時の様子を忠実に再現し、あたたかタイムスリップをしたような驚きと感動があります。 ☎0250-63-1722



㉟ ふるさと農業歴史資料館

水原代官所に隣接するこの施設には、越後府庁舎の模型のほか、農具や民具など、貴重な資料が展示されています。また、阿賀野市の特産品を販売しています。 ☎0250-63-1722



㊱ 越後府跡

越後府は、明治政府の中心機関として明治2年(1869)2月から翌年3月まで、農桑市島家の別邸跡(通称:天朝山)に置かれていました。



現在は公園として整備され、越後府正門に連なる建物の上上がっていた矢倉が再建されています。

㊲ 水原六斎市(四八市)

越後府跡(天朝山公園)の裏手、通称「市場通り」で4と8のつく日に開催され、約60軒の店が軒を連ねます。代官所が置かれた江戸時代には、新発田、三条と並ぶ越後三大市場の一つに発展しました。青果物、鮮魚、海産物、衣料品、履物、金物、種苗などが販売され、にぎわいを見せています。新鮮な朝採り野菜や山菜、豊富な鮮魚や海産物はもちろん、季節によっていろいろな商品が並ぶことも魅力です。



㊳ 無為信寺

親鸞聖人の高弟24人の1人、無為信房を開基とした浄土真宗大谷派の名刹。元来は文永年間(1264~75)に、会津に創建されたと伝えられています。寛政12年(1800)、大地主佐藤伊左衛門がこの地に再興。大正2年に本殿と客殿を焼失しましたが、金剛頂経をはじめとする国・県指定文化財を所蔵しています。



㊴ 農桑本泉(旧佐藤家)米蔵

本泉の屋号で知られる旧佐藤家は、300年以上続く古い家柄で水原で財をなした豪農。写真の蔵は米一万俵位収容できる米蔵といわれ、明治26年に建てられたもの。細部まで工夫を凝らした造りは、工人の技術の粋を集めたものであることがうかがえます。菱形の白い目地がレトロなまなこ壁が特徴。

